



Kou Natsuo Presents

夏生 恒

略奪された舞姫

花盗人の袴

DAITO
TL
シリーズ
COMICS

ほしいものが
ございましたら
この立川か
女中の志津に
お申しつけ
くださいませ

さ
どうぞ
冷めないうちに
お召しあがり
ください

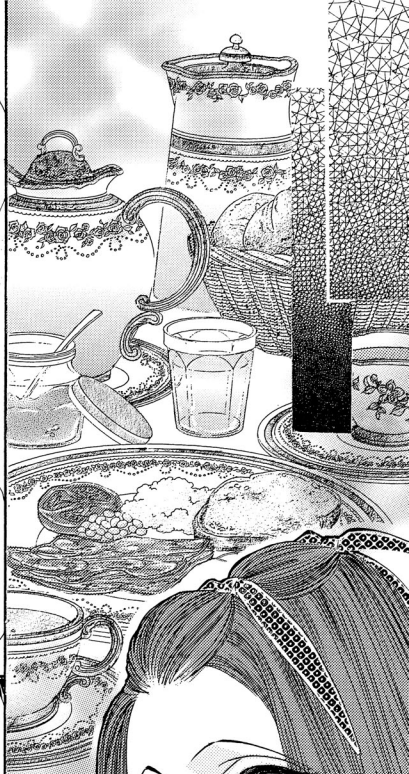
だんなさまから
お留守の間も
あなたさまに
ご不自由が
ないようにと
おおせつかつています

私（わたし）がここに
連れてこられて……
幾（いく）日に
なりますか？

あ……

置屋（おきや）の
おかあさんや
おねえさんたちが
心配していると
思うのです

せめて無事（むじ）で
いることだけでも
おしらせして
もらえませんか？



……





日残念ですが
琴音さま

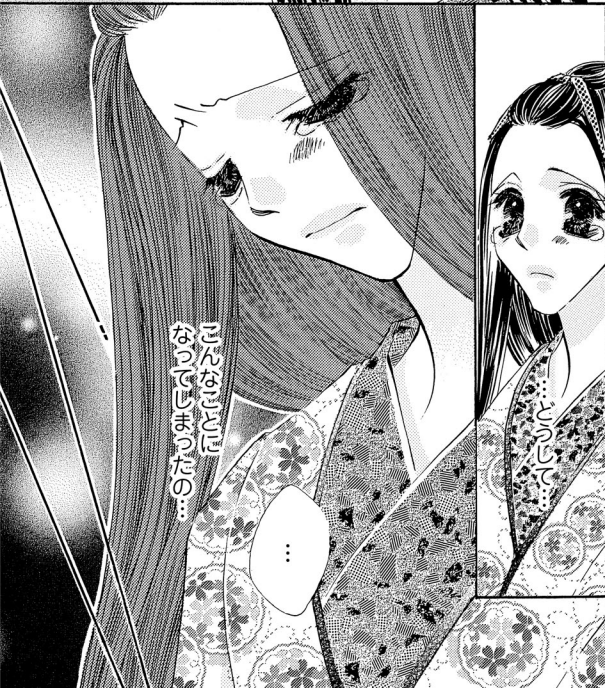
それだけは
お申しつけ
受けがねます

だんなさまは
それこそ命がけで
あなたを
かどわかして
もどられました

もしそれが
誰かの口から
表にもれでもしたら
あの方の命が

危うく
なるのです

...



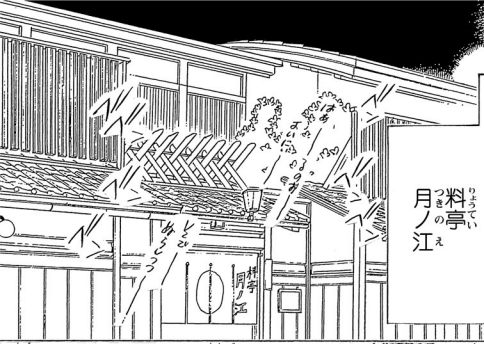
こんなことに
なってしまったの！

...



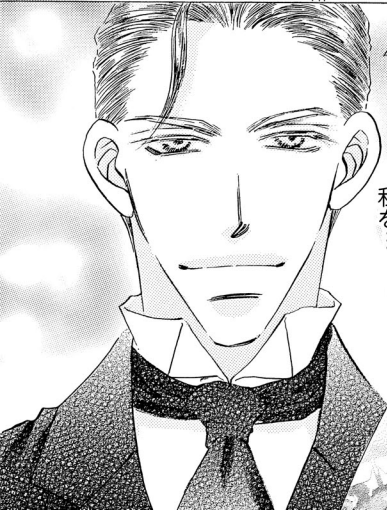
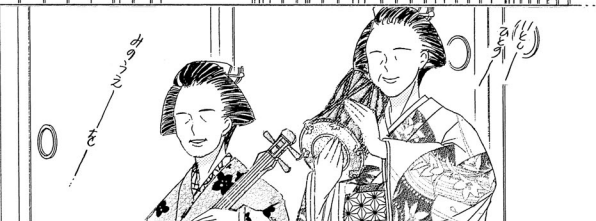
お風呂を
ご用意
いたしましょう

さっぱりされると
おもいますよ



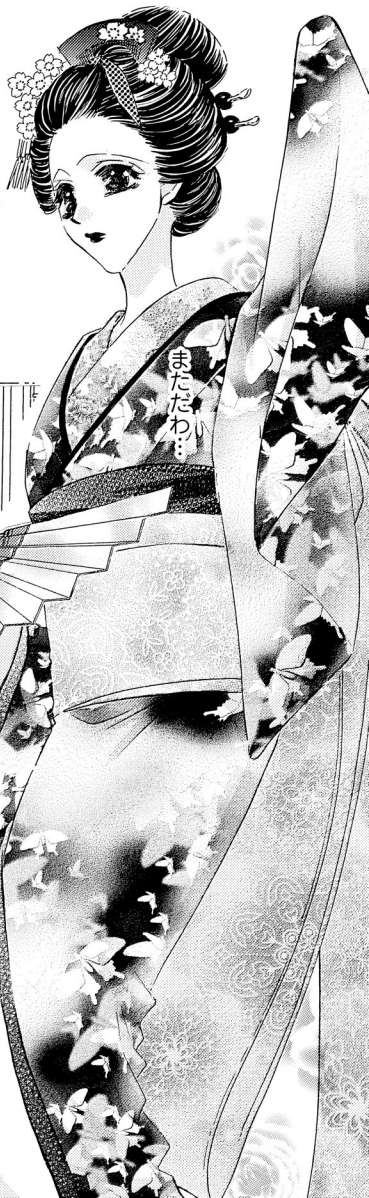
東京 明治10年

料亭
月の江



あんな瞳で
私を...

また...

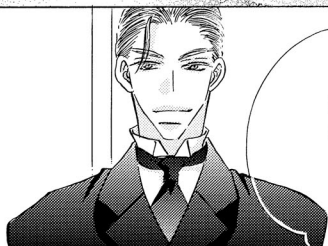


またたわ...

あの綺麗な
筆色の瞳で
みつめられると

胸がドキドキして
おちつかない

心の臓の音まで
きかれていまするんじや
ないかと
思ってしまう



みつみても
見惚れるよ!



いやー
琴音ちゃん
の春の宵は
いいねえ!

遠い遠い
英国から
お仕事のために
日本においでで

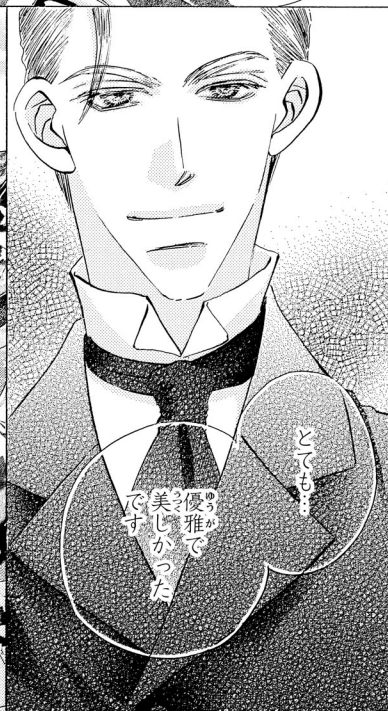


恐れ
入ります



この異人さんの
お名まえは
ネイサン・リッド・
レッドフィールド

いつも
ご鼻屑にしてください
栗本さまの大切なご友人で
お得意さまで
いらっしゃるのだとか



とても

優雅で
美しかった
です

はじめて
お会いしたときは
そのご立派な体躯に
驚いて

怖いときえ
思ったけれど

ちよくちよく
お座敷に
呼んでいただいでるうちに

ふつうにお話をさせて
いただいたりも
できるようになりました



微笑まれると
ただでさえ
お綺麗な顔が
人懐こくて

目はなせなく
なってる

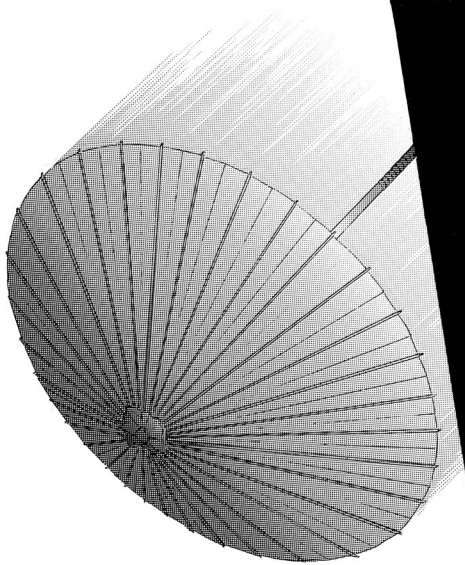
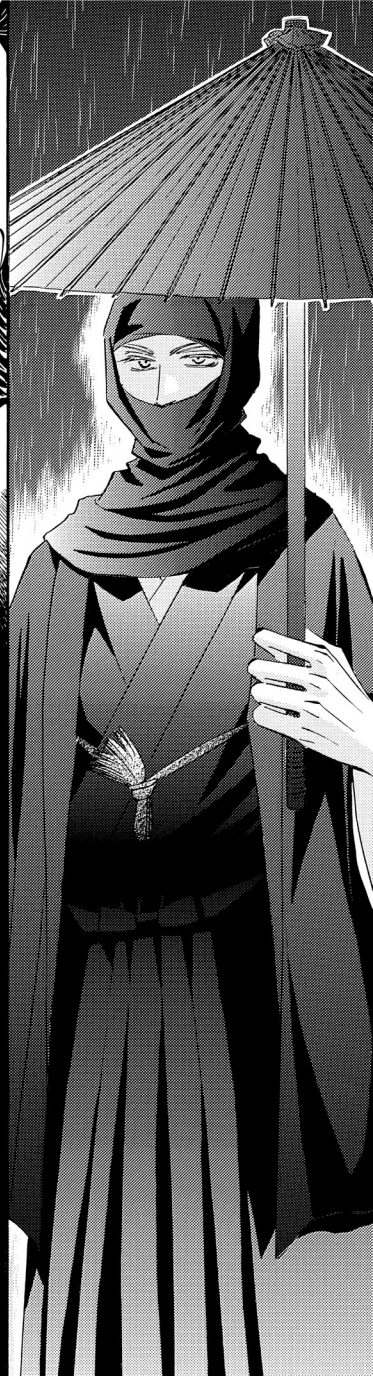
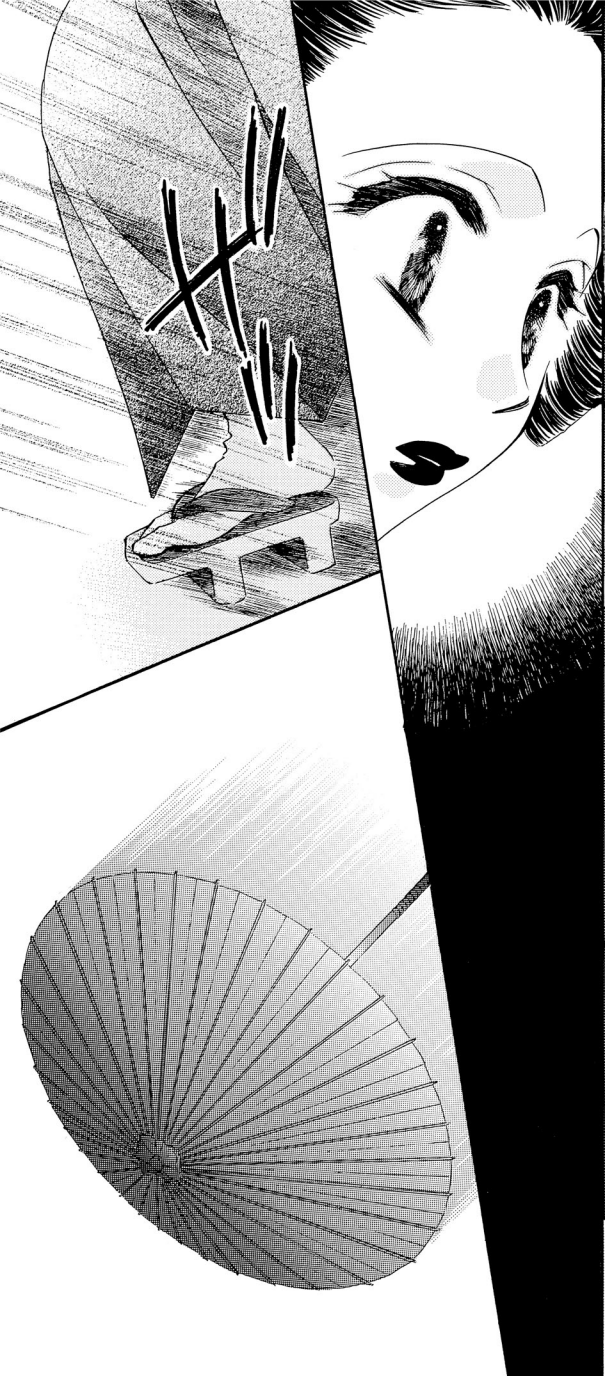
だけど
あの日

忘れ物を
ひとりとりにもとった

お茶屋さんからの
帰り道

いつの間にか
お呼びがかかるのを
楽しみに
待つようになった

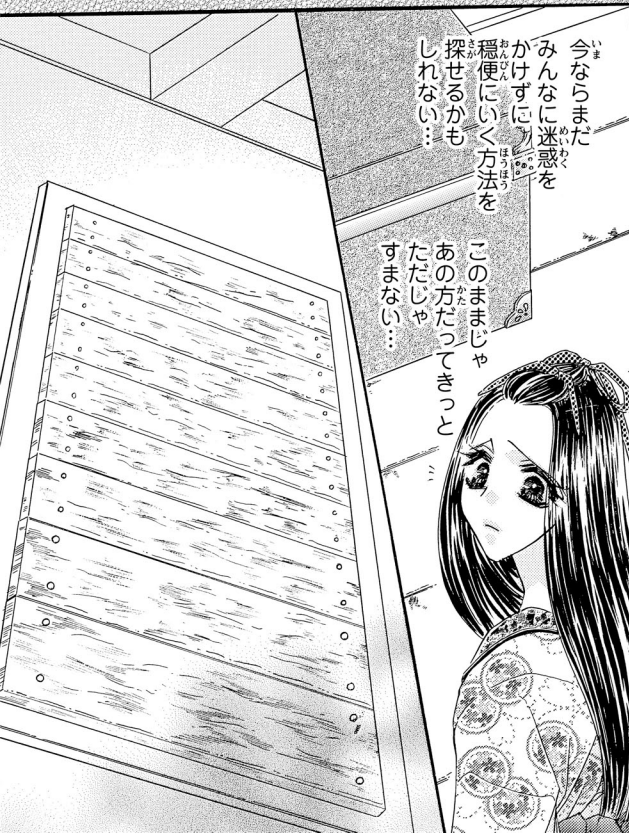
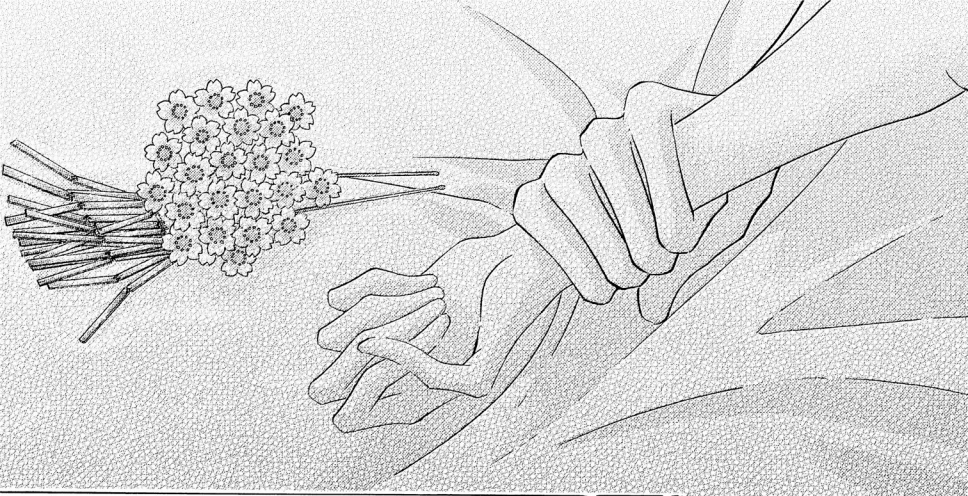






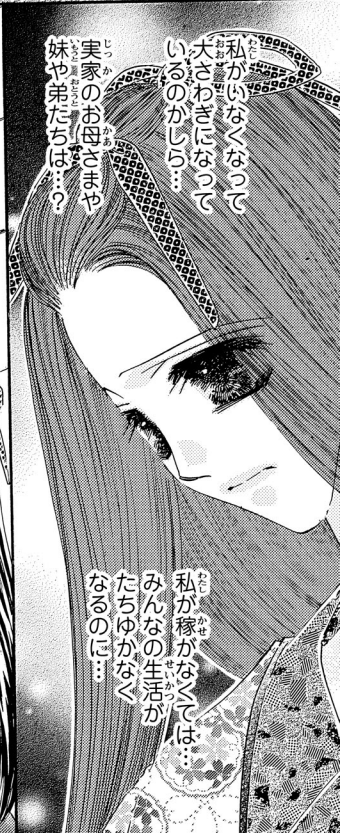
そのおち

ここに
連れてこられた。



今ならまだ
みんなに迷惑を
かけずに
稲便にいく方法を
探せるかも
しれない…

このままじゃ
あの方だつてきつと
たじや
すまない…



私がいなくなって
大さわきになって
いるのかしら…

実家のお母さまや
妹や弟たちは…？

私が稼がなくては…
みんなの生活が
たちゆかなく
なるのに…



だんなさまッ
おかえり
なさいませッ



ただいま

どうした
なにか
あったのか？

そそれが…ッ
たいへんなのですッ



なんとかか…

なんとかか
しなげや…



…

なにが
あった？

なんだ
これは…



私の
落ち度ですッ

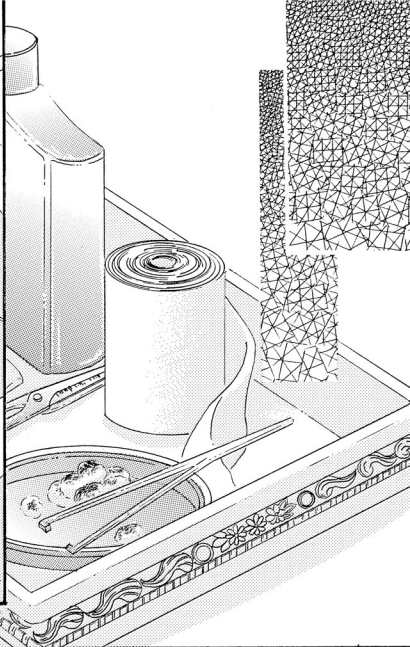
申しわけ
ありません
諸君で
目をはなした間に
素手で
窓をふさいだ板を
はずそうとなされた
ようで…



立川さんの
落ち度では
ありませんッ



…外へ
でたかったのか？

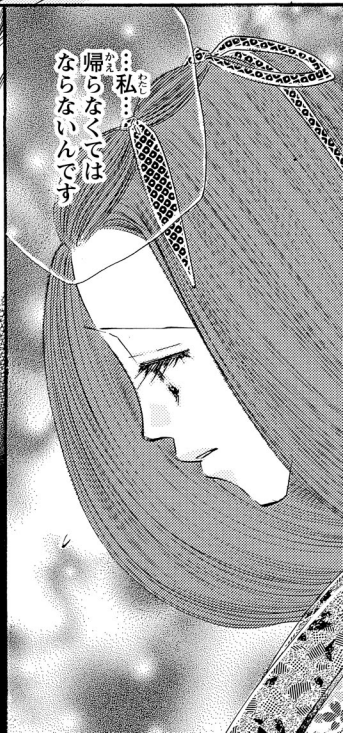


ことね
琴音

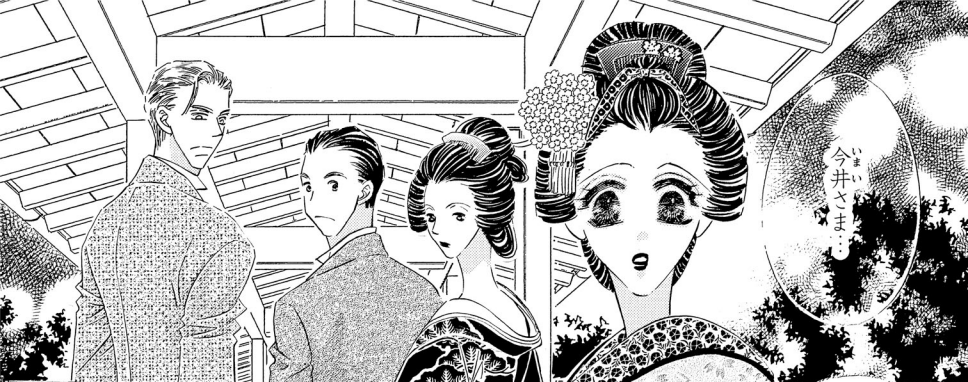
ことね
琴音じゃ
ないか！



…そんなに
あの男のものに
なりたいのか？



…私
帰らなくては
ならないんです



いまい、今井さま

こんなところで
遭えるとは！
今夜は
いいことが
あるような気が
しとったんだ

私
も
嬉
し
い
で
す



大店の
材木問屋
上杉屋の
ご隠居ですわ

こね
琴音ちゃん
の水揚げの
旦那さんに
決まったそうす

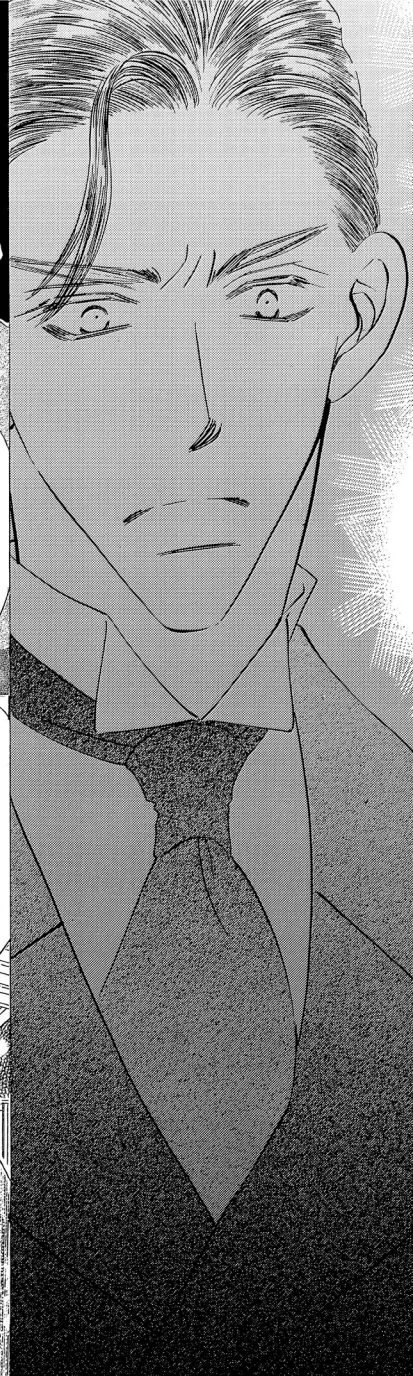
旦那さん？
なに？

ああ
君はまだ
しらなかつた
のか

旦那っていうのは
芸者見習いの半玉が
一人前になる袴替えのときに
着物や帯やの
一切切の費用を
面倒みてくれる
後见人：みたいな
ものかな

そして
旦那になった男は
彼女と初夜を
ともにして
一人前の女にする

それが
水揚げだ



床入りのときに
無体を
なやますので：


ケガをさせられ
しばらく仕事が出来なくなる
遊女が後を絶たない
そうですわ

だが
あのご隠居さんは
あまりいいウワサを
きかないな




置屋の
おかあさんも
最初はしぶった
らしいんですけど：

金だけは
持ってるからな

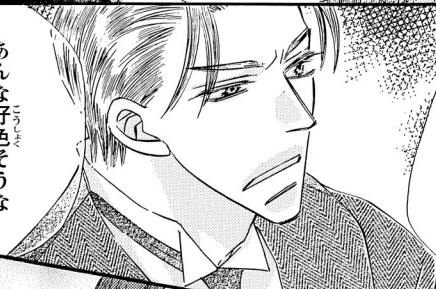


置屋^{おきや}の
跡^{あと}をとらせるつもりで
あの娘^{このやうじよ}を養女^{ようじよ}にした
おかあさんも

それなりの支度^{したぐ}を
しなければ体面^{たいめん}に
かかわると
思^{おも}ったんでしょ
う
お受^うけましたそう
です



からだを売^うることが
前提^{ぜんまい}の遊女^{ゆうじよ}とは
ちがうといつても
しよせんは年季奉公^{ねんきほうこう}
いうことだな



あの男^{おとこ}は
これみよがしに
君^{きみ}の手^てをさわったり
肩^{かた}を抱^だいたり
していたな

あんな好色^{こうしき}そう
な
年寄^{としよ}りが
そんなに
大切^{たいせつ}なのか？



...

私たちに
否はありません

ただ肅々と
受け入れるしか
ないんです

⋮

ごめんなさい
琴…

ごめんなさいね
こんなことに
なつて…

大丈夫よ
お母さま

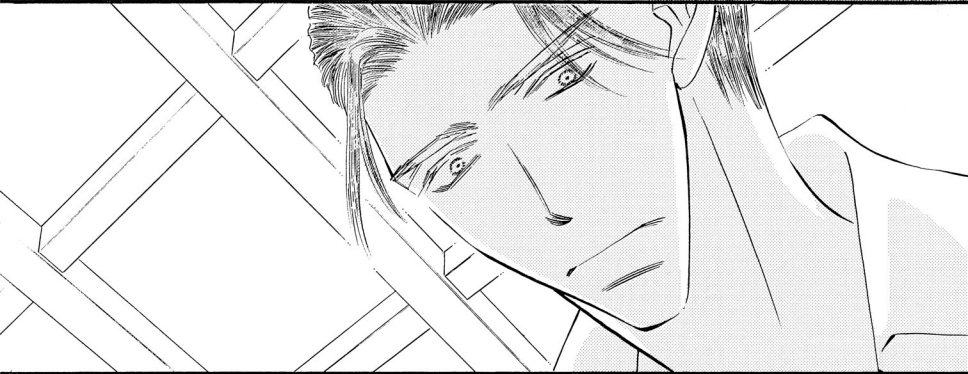
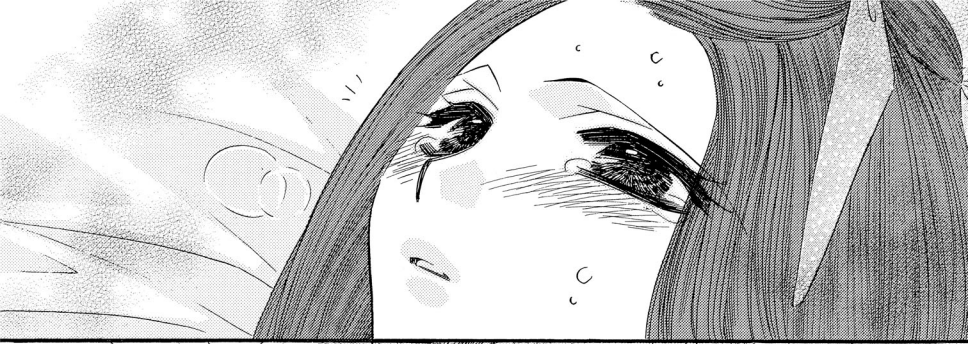
先方さまは
ゆくゆくは私に
跡を継がせる
おつもりだそうだし

大切に育ててきた
娘を
身売り同然で
養女にださなければ
いけないなんて…

なにより
遊郭で
ないだけ
ありがたいわ

きつと立派な
芸者衆に
名を連ねて
みせるから…

どんなことが
あつても
私がみんなを
守るから
心配しないで…



この指に
扇子をのせて舞う
君を
はじめてみたとき

まるで
天女のようなと
思った…



なにも
しない

熱が
こでる

おそろくこの
キズのせいだ
うずくかい…?